

2 管内の状況、分析及び学力向上策

■空知管内の状況及び学力向上策（小学校数：56校、児童数：1630人）（中学校数：38校、生徒数：1619人）

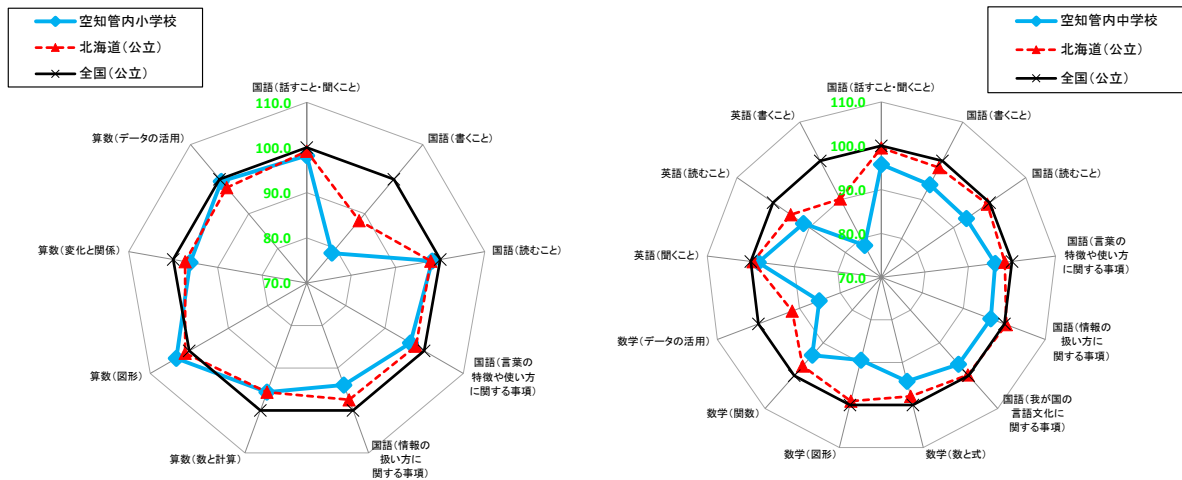
【教科全体の状況】

平均正答率	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校英語
空知管内	65[64.8]	61[61.2]	67[66.8]	47[46.8]	42[42.2]
全国	67[67.2]	63[62.5]	70[69.8]	51[51.0]	46[45.6]

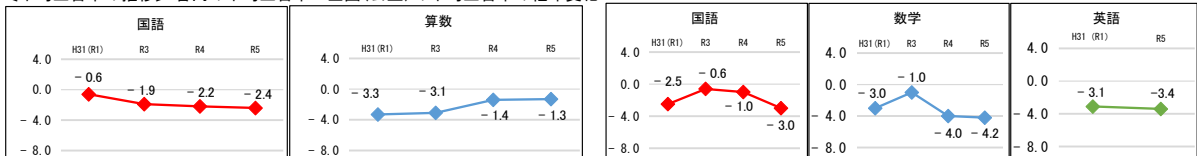
小学校

中学校

〔レーダーチャート〕教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況（管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

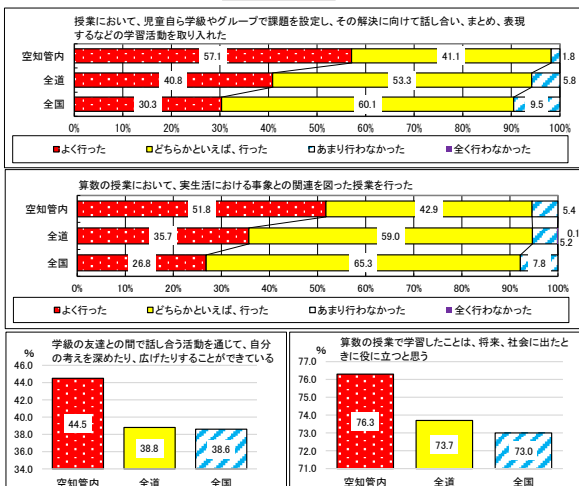


〔平均正答率の推移〕管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率の経年変化

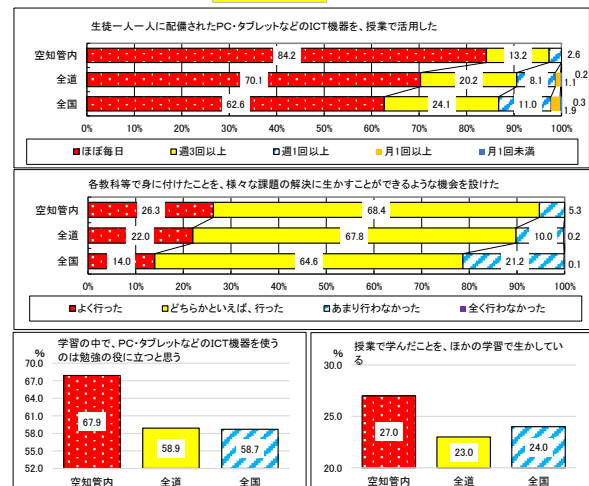


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校で、算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校で、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校で、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【空知管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

空知管内における学力向上の取組

1. 管内教育の重点(学力)

- 新しい時代に必要となる資質・能力の育成
 - ・検証改善(PDCA)サイクルによる教育課程の評価・改善
 - ・ICTを適切に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実

2. 具体的な改善策

(1) 検証改善サイクルの確立

- 全国学力・学習状況調査やCRT・NRT調査、「ほっかいどうチャレンジテスト」等を活用し、検証改善(PDCA)サイクルの確立を図るとともに、EBE協議会において、検証改善(PDCA)サイクルの「C→A」の取組について充実させる。

(2) ICTを適切に活用した授業改善の推進

- 各種調査の分析を通して、補充的な学習や個に応じた指導等、授業改善を推進する。
- ICTを適切に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学校教育指導訪問において効果的な活用事例等を周知する。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、ICTを効果的に活用している事例の普及や、教員を対象とした研修会を実施する。

(3) 市町教育委員会との連携

- 1年間に2回実施する市町教育委員会訪問において、担当者との方向性の共有及び継続的な支援方策等、連携を充実させる。
- 市町教育委員会の学力担当者を対象とした、計画的・継続的な研修会の実施を通して、各学校への指導助言の視点を共有する。

3. 令和5年度(2023年度)の取組

月	○ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成		
	(1) 検証改善サイクルの確立	(2) ICTを適切に活用した授業改善の推進	(3) 市町教育委員会との連携
4	全国学力・学習状況調査		
5	第1回EBE協議会	ほっかいどうチャレンジテスト前年度問題	第Ⅰ期市町教育委員会訪問
6		分析・補充的な学習	学校教育指導訪問
7		ほっかいどうチャレンジテスト1学期末問題	市町教育委員会学力担当者会議
8			
9		分析・補充的な学習 授業改善	
10	第2回EBE協議会	PDCAサイクルの見直し	
11		ほっかいどうチャレンジテスト2学期末問題	
12			
1		分析・補充的な学習・授業改善	
2	次年度の取組へ	ICTを活用した授業改善に係る研修会	第Ⅱ期市町教育委員会訪問
3			